

「初期診療体制の回復を」

岡山

AMDA ジャワ中部地震報告会

インドネシアのジャワ島中部地震で、緊急救援活動から帰国した国際医療援助団体「AMDA」

(本部・岡山市櫛津)の内科医、細村幹夫さん

(40)ら派遣者4人が14日、岡山市内で報告会を開いた。細村さんは「骨折患者だけでなく、風邪や下痢などの患者が利用できる初期診療体制が崩

壊しており、早く回復させる必要がある」と話した。

AMDAは地震翌日の5月28日以降、日本やフィリピン、カンボジアな

ど7カ国から医師ら41人を被災地ジョクジャカルタ市に派遣。1日30〜40人の骨折患者を手術し、現在も11人が同市周辺で巡回診療を続けている。

調整員の石沢睦夫さん(69)は「巡回診療で訪れた村は家がごとごとく崩壊し、直視できない状況。住民もぼうぜんとしていた」などと証言。会見に同席した菅波茂代表は

「肉親を亡くした子ども
の心の傷を処置する事業
が必要」などと話した。

【四谷寛】



ジャワ島中部地震で巡回診療する細村医師(右)

AMDA提供